

非稼働病棟を有する医療機関の説明資料

1. 医療機関の状況

医療機関名	稲沢市民病院				
所在地	稲沢市長東町沼100番地				
各病棟の状況 ※直近の病床機能 報告により作成	病棟名	病床機能	病床数	病床稼働率	主な診療科
	3階南病棟	急性期	17床	72.7%	混合病棟(HCU)
	3階北病棟	休床中	32床	0.0%	
	4階南病棟	急性期	46床	87.0%	混合病棟(主に外科系)
	4階北病棟	休床中	46床	0.0%	
	5階南病棟	急性期	46床	25.2%	コロナウイルス感染症専用病棟
	5階北病棟	回復期	46床	83.7%	地域包括ケア病棟
	6階南病棟	急性期	46床	98.7%	混合病棟(主に内科系)
	6階北病棟	急性期	41床	46.7%	混合病棟(主に外科系)
			320床		
地域における 役割	地域の中核病院として二次救急医療の充実に努めるとともに、地域密着型の医療を提供する				

2. 非稼働病棟の状況

非稼働開始時期	3階北病棟: 令和元年10月 4階北病棟: 平成26年11月
非稼働の理由	3階北病棟: 病床稼働率が低かったため、医療スタッフを集約し効率化を図るため一時的に休床した 4階北病棟: 平成31年4月に開床の計画であったが、医療スタッフ(特に医師)を確保できなかったため
今後の予定	3階北病棟: 再稼働 4階北病棟: 廃止、ただし一部の病室は4階南病棟の病室として使用
時期	3階北病棟: 令和5年4月(新型コロナウイルス感染症が終息したとき) 4階北病棟: 令和4年3月

(以下、再稼働の場合のみ記載)

再稼働後の機能	急性期
再稼働に向けた取組	主に高齢者を対象とした転倒による骨折治療に特化した専用病棟「転倒骨折センター」の開設準備を進めている。この中で、4階北病棟の一部病室を使用することで、4階を1病棟として運用する予定である。 3階北病棟を一時的に休床した後、新型コロナウイルス感染症がまん延し、感染症患者を受け入れるため診療制限をせざるを得なかった。新型コロナウイルス感染症終息後、診療制限を行っていた患者を受け入れていく。
病棟維持の必要性	新型コロナウイルス感染症がまん延し感染症患者を多数受け入れるため、一般病棟の5階南病棟に陰圧装置などを導入し、感染症専用病棟に整備した。新型コロナウイルス感染症が終息した後も新たな感染症に対応するため、この5階南病棟を感染症専用病棟として残しておきたいので、現在非稼働の3階北病棟を急性期病棟として維持する必要がある。